

平成 28 年度 第 36 回 JANS 若手研究推進委員会企画 若手ステップアップ研修 ご報告

若手研究推進委員会では、学会期間中に開催する初の企画として、若手ステップアップ研修を開催しました。本研修は、本委員会が 2016 年 2 月に行った研修ニーズ調査の結果を基に、第一弾として企画しました。会場の関係により事前申込制となりましたが、当日もたくさんの方にお問い合わせをいただく等、広く関心を持っていただくことができました。当日ご参加の皆様、またお問い合わせいただいたのに参加できなかった皆様、本当にありがとうございました。簡単ですが、当日の研修会の概要について報告いたします。

テーマ：査読経験者から学ぶ論文作成・投稿・査読対応

本研修は、研究者として第一歩を歩き出したばかりの方、具体的には、修士課程修了以上で博士学位取得未満の方、学会誌に投稿してリジェクトされた経験がある方、今後論文投稿しよう！と熱意のある方にご参加いただきたいと考えて企画しました。

研修の前半は、本学会和文誌編集委員の宮本有紀先生（東京大学大学院医学系研究科）にご講義をいただきました。宮本先生からは、論文を書くためのコツについて具体例をあげながらわかりやすいお言葉でお話いただきました。そのお話には、論文を書く How to 論だけでなく、すべての研究に価値があること、査読者は投稿者の論文をよりよくするための味方であり、査読結果は査読者と投稿者とのプレゼント交換であること等、査読プロセスにまつわる心温まるメッセージがたくさん含まれていました。

研修の後半は、宮本先生に加えて 2 名の若手研究推進委員が登壇し、参加者の皆さんからいただいた質問に回答する形で意見交換を行いました。意見交換では、「結果がたくさんある場合は複数の論文に分けてよいか？」「収集した古いデータでも投稿できる期限はどのくらいか？」「査読者の意見が異なる場合はどのように対応したらよいか？」等、参加者の皆さんが普段感じている素朴な疑問をたくさん質問していただくことができました。最後にあった「モチベーションの保ち方は？」という質問には、宮本先生を始め登壇者全員が査読結果を受けて落ち込むことも多いこと、「時間がない」と考えず「時間を意図的に作る」ための工夫をしていること、開く気になれるオリジナルの研究ノートを用意して研究や論文のアイデアを書き込むこと等、自身が実践している内容を教えていただきました。

短い時間ではありましたが、参加者の 9 割以上の方々に研修内容がよかった！とお答えいただくことができました。本委員会では、皆さんのニーズに合わせた企画をこれからも継続して開催できればと思っています。ぜひ本委員会に皆様の声を届けて下さい！

そして、本研修に参加いただいた皆様！研修での学びを胸に、研究成果を論文に残せるように頑張りましょう！！

● 参加者の皆さんからいただいたご意見（アンケート結果より、一部抜粋） ●

- ・宮本先生のお話がとても分かりやすく参考になりました。すごく面白かったです。
- ・前半の講演も後半のディスカッションもすべて含めて、投稿への勇気が出ました。
- ・先生方の困っていることや努力されている姿を知ることができて、同じ人間なんだという視点でやる気が上がりました。
- ・もっと長くても（6 時間でも）良いくらい楽しかった、ディスカッションをもっと聴きたかったです。

